

類編章項4第2編					IE								新		
第2編第2章	○ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	小敬士	•		広域避難の	-		○陸	بار مار	/ n去 .1 . 数		· 6 富士山火!			
	〇噴火前(噴	火舎ルレー	ヘルの上昇	- )と頃火角	始直後の避	<b>鞋</b>  溶岩流			火削	(噴火警戒	レベルの上昇	)と噴火開火	百旦後の避期	<u> </u>	
	ज <i>1</i>		火砕流、 火口形成	大きな噴石		俗石机			<b>5</b>	^	火砕流、 火口形成	大きな噴石		俗有机	
	区分		第1次避 難対象エ リア	第2次避 難対象エ リア	第3次避 難対象エ リア	第4次A避難 対象エリア	第4次B避難 対象エリア		区	分	第1次避難 対象エリア	第 2 次避 難対象エ リア	第3次避 難対象エ リア	第4次A避難 対象エリア	第4次B避難 対象エリア
			避難準 備・避難 【全方位】						レ噴	一般住民	避難準備・       避難       【全方位】				
	ル ッ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	選 類 行 財 要 支 計 者	避難【全方位】	_	_	_	_		ベ 火 ル 警 3 戒	避難行動要支援者	【主力业】	_	_	_	_
	者	・登山	入山規制 【全方位】	\D; ##\%E  ##						観 光 客·登山 者	<mark>避難・</mark> 入山 規制 【全方位】	\15; ## \1#			
	R   R   R   R   R   R   R   R   R   R	難 行 要 支	避難	避難準備 【全方位】 避難 【全方位】	_	_	_	噴火前	レベル警	一民 避難要 動域	避難 【全方位】	避難準備 【全方位】 避難 【全方位】	_	_	_
	4 戒 観 客	· 登山	【全方位】	入山規制 【全方位】				Hill Hill	4 戒	援者 観 光 客·登山 者	<u>避難・入山</u> 規制 【全方位】	<u>避難・</u> 入山 規制 【全方位】	-		
	レベル警 援	葉 難 行 」要 支 養者	避難 【全方位】	避難 【全方位】	避難準備【全方位】 避難【全方位】	_	_		レ噴火警	援者	避難 【全方位】	避難 【全方位】	避難準備 【全方位】 避難 【全方位】		_
	5	· 登山 · 登山			入山規制 【全方位】				5 戒	観 光 客·登山 者	<u>規制</u> 【全方位】	<u>避難・入山</u> <u>規制</u> 【全方位】	<u>避難</u> ・入山 規制 【全方位】		
	噴 民	難 行				避難準備 【必要なライン】 避難			噴火	一般住民避難行	避難 【全方位】 避難	避難 【全方位】 避難	避難 【必要なライン】 避難	避難準備 【必要なライン】 避難	
	始緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩緩		避難【全方位】	避難 【全方位】	避難【必要なライン】	【ツ亜もラフン】	_		開 始 直 後	動 要 支 援者 観 光	【全方位】 <u>避難・入山</u>	【全方位】 <u>避難・入山</u>	【必要なライン】         避難・入山	【必要なライン】 避難・入山規	_
	者	・登山				【必要なライン】				客•登山者	<u>規制</u> 【全方位】	<u>規制</u> 【全方位】	<u>規制</u> 【必要なライン】	<u>制</u> 【必要なライン】	

頁	編章項			ĺΞ				(14)	11-1-1		-	新		
p14	第2編													
	第2章	〇噴火開始後の	現象発生別(	の避難				〇噴火	開始後の	現象発生別	リの避難 ニュ			<u> </u>
					溶岩流							溶岩流		
		区分	第1次避 難対象エ リア	難対象エ 難リア	3 次避 対象エ リア 対象エリ	ア 対象エリア		区	分	第1次避難対象エリア		第3次避 難対象エ リア 第4次 難 対象エ ファ	第4次B避難	
		現象の発生		浴岩	流の流下の場合 *A		• B	TH A	D 7% IL		 溶			-
		一般	住			避難準備		現象(	の発生			* A		
		噴 民 火 難 難 要		避難	辞難 避難	【対象ライン】 避難	辛難	噴 火	一般住 民 避難行		避難	避難 避難		<u>&gt; ]</u>
		始 援者 観	【対象ライン】 光	【対象ライン】【対象		【対集カイン】	*ライン】	開 始	動 要 支 援者	【対象フイン】	対象ライン】【対象		【対象ライン】 	
		客・登   者		<b>出法の法下の司</b> 坐	M がも Z 相 △	【対象ライン】		後	<ul><li>観 光</li><li>客・登山</li><li>者</li></ul>		<u>規制</u>	避難・       山規制       (対象ライン)       【対象ラ	<u>規制</u> <u>規制</u>	
		* A:第4次A避難 * B:第4次B避難							1次A避難	対象エリアに	溶岩流の流下の	可能性がある場合		
p15	第2編							*B:第4	4 次 B 避難 🤇	対象エリアに	溶岩流の流下の	可能性がある場合		
	第2章													
		融雪型火山泥						融雪型			降灰	小さな噴き	石 降灰後土石流	
		流	降	灰	小さな噴石	降灰後土石流			流				THE THE	
		避難対象エリア	避難対象エリ ア	屋内退避対象エリア	影響想定範囲	避難対象エリア		避難対	象エリ アー	避難対象エリア		ア 影響想定範	囲 避難対象エリア	
		_	_	_	_	_		_	_	_	_	_	_	
		\n+ +4 \/4 \/4 \/4 \/4 \/4 \/4 \/4 \/4 \/4 \/						避難	準備 [		****	7		
		避難準備 【全方位】	[降灰前に避難	を要する場合]				【全力			難を要する場合	1		
		避難 【全方位】	避難準備	_	_	_		【全力	ラ位】	避難準備	_	_	_	
		入山規制 【全方位】						入山 【全力						
								避						
		避難【全方位】	避難	避難準備	_	_		【全方		避難	避難準備	<del></del>	_	
								<u>避難・プ</u> 【全力						
				1	<u> </u>									

頁	編章項			IΒ		
			降灰可能性マ	ップの範囲		
		避難 【必要な範囲】	避難準備	屋内退避準備	屋内退避準備	_
			<u> </u>	j		

融雪型火山泥 流	降灰		小さな噴石	降灰後土石流
避難対象エリ ア	避難対象エリ ア	屋内退避対象エリ ア	影響想定範囲	降灰域内の 避難対象エリア
	火山灰の降	<b>锋下の場合</b>	小さな噴石の 降下の場合	土石流の危険 がある場合
(事前避難)	降灰シミュ (気象庁作成)の 避難	レーション 節囲等を参考に設   屋内退避 -	屋内退避	避難準備 / 避難 (降雨により)

# 第2編第2章

#### 3. 段階別の避難の流れ

#### 3-1 噴火前の避難計画

噴火前は、避難における時間的猶予のない溶岩流等と融雪型火山泥流からの避難を対象とする。この際、各火山現象の避難対象エリアが重複する範囲では、より安全性の高い避難行動となるよう、溶岩流等避難対象エリアではエリア外への避難を行い、溶岩流等避難対象エリア外の融雪型火山泥流避難対象エリアでは堅牢な建物への避難を行う。

噴火前は、火口が特定できないとされていることから、想定火口範囲内のどこで噴火しても 対応できるよう、溶岩流等や融雪型火山泥流に対しては全方位避難とする。

なお、表 13、表 14、表 15 は、避難行動の流れを噴火の段階別に区分し、再整理したものである。

#### 表 13 噴火前の避難計画

区分	火山現象	範囲	一般住民	避難行動 要支援者	観光客・ 登山者
噴火警戒レベル3	溶岩流等	第1次避難対象エリア 【全方位】	避難準備 ・避難	避難	入山規制
	溶岩流等	第1次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難
噴火警戒レベル4	俗石伽寺	第2次避難対象エリア 【全方位】	避難準備	避難	入山規制
	融雪型火山泥 流	避難対象エリア 【全方位】	避難準備	避難	入山規制

		체			
ብተ ተበ <i>ረ</i>	トー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ップの範囲・・・			
避難 【必要な範囲】	避難準備	屋内退避準備	屋内退避準備	_	
<u>避難・入山規制</u> 【必要な範囲】		,			

融雪型火山泥 流	降	灰	小さな噴石	降灰後土石流
避難対象エリ ア	避難対象エリ ア	屋内退避対象エリ ア	影響想定範囲	降灰域内の 避難対象エリア
	火山灰の降	<b>峰下の場合</b>	小さな噴石の 降下の場合	土石流の危険 がある場合
(事前避難)	降灰シミュ (気象庁作成)の 避難	レーション 節囲等を参考に設 屋内退避	屋内退避	避難準備 / 避難 (降雨により)

#### 3. 段階別の避難の流れ

#### 3-1 噴火前の避難計画

噴火前は、避難における時間的猶予のない溶岩流等と融雪型火山泥流からの避難を対象とする。この際、各火山現象の避難対象エリアが重複する範囲では、より安全性の高い避難行動となるよう、溶岩流等避難対象エリアではエリア外への避難を行い、溶岩流等避難対象エリア外の融雪型火山泥流避難対象エリアでは堅牢な建物への避難を行う。

噴火前は、火口が特定できないとされていることから、想定火口範囲内のどこで噴火しても 対応できるよう、溶岩流等や融雪型火山泥流に対しては全方位避難とする。

なお、表 13、表 14、表 15 は、避難行動の流れを噴火の段階別に区分し、再整理したものである。

#### 表 13 噴火前の避難計画

区分	火山現象	範囲	一般住民	避難行動 要支援者	観光客・ 登山者
噴火警戒レベル3	溶岩流等	第1次避難対象エリア 【全方位】	避難準備 ・避難	遊難	遊難·入山規制
	溶岩流等	第1次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	<u>避難·入山規</u> <u>制</u>
噴火警戒レベル4	俗石孤寺	第2次避難対象エリア 【全方位】	避難準備	避難	<u>避難·</u> 入山規 制
	融雪型火山泥 流	避難対象エリア 【全方位】	避難準備	避難	<u>避難</u> •入山規 制

頁	編章項				旧			
					第1次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難
			噴火警戒	溶岩流等	第2次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難
			レベル 5		第3次避難対象エリア 【全方位】	避難準備	避難	入山規制
				融雪型火山泥 流	避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難
		※名	ケ火山現象の	避難対象エリ	アは重複している範囲がある	る。本表は、火山	1現象ごとの対応	を記載しており、

※各火山現象の避難対象エリアは重複している範囲がある。本表は、火山現象ごとの対応を記載しており、エリアが重複している範囲については、より安全性の高い避難行動をとるものとする。なお、融雪型火山泥流は、積雪期のみ発生する可能性がある。

### 第2編 3-2噴火開始直後の避難計画

p. 39

第2章

噴火開始直後は、火口位置、噴火形態や噴火規模をすぐに把握できない場合があるため、観測されている火山現象のほかに、可能性のある全ての火山現象に対応する必要がある(表 14)。この際、各火山現象の避難対象エリアが重複する範囲では、より安全性の高い避難行動となるよう、溶岩流等避難対象エリアではエリア外への避難を行い、溶岩流等避難対象エリア外の融雪型火山泥流避難対象エリアでは堅牢な建物への避難を行い、溶岩流等及び融雪型火山泥流避難対象エリアの降灰避難対象エリアでは堅牢な建物への避難準備を行い、同じく降灰屋内退避対象エリア及び小さな噴石影響想定範囲では屋内退避準備を行う。

噴火開始直後においては、火口の詳細な位置がすぐに特定できないことも考えられるため、 溶岩流等と融雪型火山泥流からの避難は、必要なライン・範囲を対象とする。

また、降灰及び小さな噴石についても同様に、どの方向に降灰等があるか特定できるまでは、 降灰可能性マップにおいて 30cm 以上の降灰が想定される範囲では避難準備とし、2 cm 以上の降 灰が想定される範囲(影響想定範囲)及び小さな噴石の影響想定範囲では屋内退避準備とする。

#### 表 14 噴火開始直後の避難計画

区分	火山現象	範囲	一般住民	避難行動 要支援者	観光客・ 登山者
噴		第1次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難
火 開 始	溶岩流等	第2次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難
直後		第3次避難対象エリア【必要なライン】	避難	避難	避難
		第4次A避難対象エリア	避難準備	避難	入山規制

		新			
		第1次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難· <u>入山規</u> <u>制</u>
噴火警戒	溶岩流等	第2次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難· <u>入山規</u> <u>制</u>
レベル 5		第3次避難対象エリア 【全方位】	避難準備	避難	<u>避難</u> •入山規 制
	融雪型火山泥 流	避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難· <u>入山規</u> <u>制</u>

エ ※各火山現象の避難対象エリアは重複している範囲がある。本表は、火山現象ごとの対応を記載しており、エ リアが重複している範囲については、より安全性の高い避難行動をとるものとする。なお、融雪型火山泥流は、 積雪期のみ発生する可能性がある。

#### 3-2噴火開始直後の避難計画

噴火開始直後は、火口位置、噴火形態や噴火規模をすぐに把握できない場合があるため、観測されている火山現象のほかに、可能性のある全ての火山現象に対応する必要がある(表 14)。この際、各火山現象の避難対象エリアが重複する範囲では、より安全性の高い避難行動となるよう、溶岩流等避難対象エリアではエリア外への避難を行い、溶岩流等避難対象エリア外の融雪型火山泥流避難対象エリアでは堅牢な建物への避難を行い、溶岩流等及び融雪型火山泥流避難対象エリア外の降灰避難対象エリアでは堅牢な建物への避難準備を行い、同じく降灰屋内退避対象エリア及び小さな噴石影響想定範囲では屋内退避準備を行う。

噴火開始直後においては、火口の詳細な位置がすぐに特定できないことも考えられるため、 溶岩流等と融雪型火山泥流からの避難は、必要なライン・範囲を対象とする。

また、降灰及び小さな噴石についても同様に、どの方向に降灰等があるか特定できるまでは、 降灰可能性マップにおいて 30cm 以上の降灰が想定される範囲では避難準備とし、2 cm 以上の降 灰が想定される範囲(影響想定範囲)及び小さな噴石の影響想定範囲では屋内退避準備とする。

#### 表 14 噴火開始直後の避難計画

区分	火山現象	範囲	一般住民	避難行動 要支援者	観光客・ 登山者
噴		第1次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難 <u>•入山規</u> <u>制</u>
火 開 始	溶岩流等	第2次避難対象エリア 【全方位】	避難	避難	避難 <u>•入山規</u> <u>制</u>
直 後		第3次避難対象エリ ア【必要なライン】	避難	避難	避難 <u>・入山規</u> <u>制</u>
		第4次A避難対象エリア	避難準備	避難	<u>避難·</u> 入山規 制

頁	編章項			旧			
				【必要なライン】			
			融雪型火山泥 流	避難対象エリア 【必要な範囲】	避難	避難	避難
			降灰	降灰可能性マップにおける 30cm 以上の降灰が想定される範囲		避難準備	避難準備
				影響想定範囲	屋内退避準 備	屋内退避準 備	屋内退避準 備
			小さな噴石	影響想定範囲	屋内退避準 備	屋内退避準 備	屋内退避準 備

#### 3-3噴火開始後の避難計画

p40

第2編

第2章

噴火開始後は、火口の位置及び噴火形態が把握され、規模が予測できた後には、溶岩流等に 対してはライン避難とし、降灰、小さな噴石及び降灰後土石流に対しては、状況に応じた避難|対してはライン避難とし、降灰、小さな噴石及び降灰後土石流に対しては、状況に応じた避難 とする (表 15)。

なお、これらの火山現象は複合して発生する可能性があるため、それぞれの火山現象に対応 る。

#### 表 15 噴火開始後の避難計画

区分	火山現象	範囲	一般住民	避難行動 要支援者	観光客・ 登山者
		第 1 次避難対象エリア 【対象ライン】	避難	避難	避難
		第2次避難対象エリア 【対象ライン】	避難	避難	避難
溶岩		第3次避難対象エリア 【対象ライン】	避難	避難	避難
流の 流下	溶岩流等	第4次A避難対象エリア	第4次A避難対象エリアに流下の可能性がある 場合		
後		【対象ライン】	避難	避難	避難
			第4次A避難対	象エリアに流下の場合	の可能性がある
		第4次B避難対象エリア 【対象ライン】	避難準備	避難	入山規制
			第4次B避難対象エリアに流下の可能性がある 場合		
			避難	避難	避難

【必要なライン】 融雪型火山泥 避難対象エリア 避難•入山規 避難 避難 【必要な範囲】 流 降灰可能性マップにお ける 30cm 以上の降灰 避難準備 避難準備 避難準備 が想定される範囲 降灰 屋内退避準 屋内退避準 屋内退避準 影響想定範囲 屋内退避準 小さな噴 屋内退避準 屋内退避準 影響想定範囲 備 備 備

#### 3-3噴火開始後の避難計画

噴火開始後は、火口の位置及び噴火形態が把握され、規模が予測できた後には、溶岩流等に とする (表 15)。

なお、これらの火山現象は複合して発生する可能性があるため、それぞれの火山現象に対応 する必要があるとともに、当該時点で発表されている噴火警戒レベルに基づく対応も必要となりする必要があるとともに、当該時点で発表されている噴火警戒レベルに基づく対応も必要となり る。

#### 表 15 噴火開始後の避難計画

区分	火山現象	範囲	一般住民	避難行動 要支援者	観光客・ 登山者
		第1次避難対象エリア 【対象ライン】	避難	避難	避難 <u>·入山規</u> <u>制</u>
		第2次避難対象エリア 【対象ライン】	避難	避難	<u>避難・入山規</u> <u>制</u>
No.		第3次避難対象エリア 【対象ライン】	避難	避難	避難 <u>·入山規</u> <u>制</u>
溶岩 流の 流下	溶岩流等	第4次A避難対象エリ	第4次A避難対象エリアに流下の可能性がある 場合		
後		ア 【対象ライン】	避難	避難	避難 <u>•入山規</u> <u>制</u>
			第4次A避難対	象エリアに流下。 場合	の可能性がある
		第4次B避難対象エリア	避難準備	避難	<u>避難·</u> 入山規 制
		【対象ライン】	第4次B避難対象エリアに流下の可能性がある 場合		
			避難	=	=

避難			
屋内退避			
屋内退避			
避難			
噴火警戒レベルに基づく対応			
シートマッ			
道及び山			

頁 編章項		新
		TOTAL PARTY TO THE
		************************************
	4. 広域避難路の指定及び確保 (1) 広域避難路の指定 協議会は、広域避難を円滑に実施するため、広域避難の軸となる路線、区間を広域避難路と して指定する (表 48、49、図 32)。	4. 広域避難路の指定及び確保 (1) 広域避難路の指定 協議会は、広域避難を円滑に実施するため、広域避難の軸となる路線、区間を広域避難路と して指定する (表 48、49、 <mark>図 33</mark> )。
	<b>図 32 広域避難路</b> (略)	図 <u>33</u> 広域避難路 (略)

頁	編章項	旧	新
	第3編		
117	第3章	   5.交通規制	
			5-2高速道路等における交通規制
		(1) 基本的な考え方	(1) 基本的な考え方
		加速を表現的	規制の対象となる高速道路等は、「東名高速道路、新東名高速道路、中央自動車道、東富士五
		   湖道路」とする。交通規制の実施例を図 33 に示す。	湖道路」とする。交通規制の実施例を <mark>図 34</mark> に示す。
118		図 33 高速道路等における交通規制の実施例	図 34 高速道路等における交通規制の実施例
		(略)	(略)
120		5-3鉄道における運行規制	5-3鉄道における運行規制
		(1) 基本的な考え方	(1) 基本的な考え方
		溶岩流等の影響想定範囲に係る鉄道路線及び区間は次に示すとおりである (図 34)	溶岩流等の影響想定範囲に係る鉄道路線及び区間は次に示すとおりである(図 35)。
122		図 34   溶岩流等の影響想定範囲に係る鉄道路線及び区間	図 35 溶岩流等の影響想定範囲に係る鉄道路線及び区間
		(略)	(略)
125		6. 広域避難路等の堆積物の除去	6. 広域避難路等の堆積物の除去
		道路上に火山灰が5㎜以上堆積すると、降雨時には除灰車両が動けず除灰作業が困難となる	道路上に火山灰が 5 ㎜以上堆積すると、降雨時には除灰車両が動けず除灰作業が困難となる
		ことから、広域避難路等が通行不能(図 35)となる。	ことから、広域避難路等が通行不能(図 36) となる。
		図 35 道路が通行不能となる降灰堆積深	図 36
		(略)	(略)
126		6-1除灰等に係る対応	6-1除灰等に係る対応
		(1) 基本的な考え方	(1) 基本的な考え方
		道路管理者は、大規模災害時において直ちに道路啓開を進め、緊急車両の通行ルートを迅速	道路管理者は、大規模災害時において直ちに道路啓開を進め、緊急車両の通行ルートを迅速
		に確保するため、区間を指定し、緊急車両の妨げとなる車両の運転者等に対する移動の命令や	に確保するため、区間を指定し、緊急車両の妨げとなる車両の運転者等に対する移動の命令や
		運転者の不在時等に自ら車両を移動することが可能である(災害対策基本法第76条の6)(図	運転者の不在時等に自ら車両を移動することが可能である(災害対策基本法第76条の6)(図
		36) 。	37) 。
		図 36 災害対策基本法に基づく放置車両対策	図 <u>37</u> 災害対策基本法に基づく放置車両対策
		(略)	(略)
129		6-2火山灰の処分	6-2火山灰の処分
		(1) 基本的な考え方	(1) 基本的な考え方
		広域避難路等の除灰作業で収集した火山灰は、図 37 に示す手順により処分を行う。	広域避難路等の除灰作業で収集した火山灰は、図 <u>38</u> に示す手順により処分を行う。

頁 編章項	国工山八山 <u>丛</u> 《起 <del>然</del> 时 自改正	新
第3編	図 37 火山灰の処分手順	図 38 火山灰の処分手順
第3章	(略)	(略)
	(2) 火山灰仮置き場	(2) 火山灰仮置き場
	火山灰仮置き場は、広域避難路等で収集した火山灰を一時的に集積する場所であり、仮置き	火山灰仮置き場は、広域避難路等で収集した火山灰を一時的に集積する場所であり、仮置き
	期間は1~3か月程度を想定する(図38)。	期間は $1\sim3$ か月程度を想定する(図 $39$ )。
	図 38 火山灰仮置き場での保管例	図 <u>39</u> 火山灰仮置き場での保管例
	(略)	(略)
130	(3) 火山灰処分場	(3) 火山灰処分場
	火山灰処分場は、火山灰仮置き場に集積された火山灰を収集、運搬し、廃棄する場所(図 39)	火山灰処分場は、火山灰仮置き場に集積された火山灰を収集、運搬し、廃棄する場所(図 40)
	であり、選定には各火山灰仮置き場からの距離や運搬方法等を考慮する必要がある。	であり、選定には各火山灰仮置き場からの距離や運搬方法等を考慮する必要がある。
	図 39 火山灰処分場における処置の例(盛土)	図 40 火山灰処分場における処置の例(盛土)
	(略)	(略)
133	8. 避難行動要支援者等への避難支援	8. 避難行動要支援者等への避難支援
	8-1 避難行動要支援者及び社会福祉施設等の入所者・入院患者の避難	8-1 避難行動要支援者及び社会福祉施設等の入所者・入院患者の避難
	避難行動要支援者及び社会福祉施設等の入所者・入院患者の避難先については、繰り返しの	避難行動要支援者及び社会福祉施設等の入所者・入院患者の避難先については、繰り返しの
	避難を避けるため、第4次B避難対象エリアより外側の地域に確保する(図 40)。	避難を避けるため、第4次B避難対象エリアより外側の地域に確保する(図 <u>41</u> )。
144	図 40 避難行動要支援者等の避難イメージ	<u>図 41</u> 避難行動要支援者等の避難イメージ
	(略)	(略)
	1 1 . 避難長期化対策	11.避難長期化対策
	1 1-2 被災者への住宅供給	1 1-2 被災者への住宅供給
	(1) 基本的な考え方	(1) 基本的な考え方
	住宅確保・再建支援のフロー(例)を図 41 に示す。	住宅確保・再建支援のフロー(例)を図 42 に示す。
	図 41 住宅確保・再建支援のフロー(例)	<u>図 42</u> 住宅確保・再建支援のフロー(例)
	(略)	(略)
145	11−3ボランティアの活用	1 1-3 ボランティアの活用
	(1) 基本的な考え方	(1) 基本的な考え方
	火山災害では、避難所等の運営や降灰の除去など、多くのボランティアを必要とする状況が	火山災害では、避難所等の運営や降灰の除去など、多くのボランティアを必要とする状況が
	生じる。県及び避難実施市町村は、ボランティアの受入体制を構築するとともに、噴火の際に	生じる。県及び避難実施市町村は、ボランティアの受入体制を構築するとともに、噴火の際に
	求められる支援の内容に対応しボランティアを有効活用する(図 42)。	求められる支援の内容に対応しボランティアを有効活用する(図 43)。

	<b>一直上山人山山以近</b> 親計画以上	
真	編章項	新
146	図 42 市町村のボランティア本部の体制と活動内容	図 43 市町村のボランティア本部の体制と活動内容
	(略)	(略)
	(2) ボランティアの受入れ体制	(2) ボランティアの受入れ体制
	ボランティアの受入れは、原則として避難実施市町村ごとに社会福祉協議会やボランティア	
	団体により運営される市町村災害ボランティア本部において実施する(図 43)。	団体により運営される市町村災害ボランティア本部において実施する(図 44)。
147	図 43 山梨県・静岡県におけるボランティアの受入・連携体制	図 44 山梨県・静岡県におけるボランティアの受入・連携体制
147		
	(略)	(略)
	l .	